

工学院アイデンティティ

際立つ

生涯にかかわる自らの基礎は中学時代に築いた！ そう思い起こす保護者の皆さんも多いことでしょう。

中学時代は心身ともに劇的な成長期。学問も人格も中学校時代の経験が糧となる。さらに力を注ごうじゃないか！ そう工学院は決意しました。中学時代から工学院の文化で導き、時間をかけて「工学院アイデンティティ」を授けたい。そして、23年度入試。募集定員を80名から105名に拡大。より多くの中学生を募りました。23年桜、覆うキャンパスに予定数の中学生が集いました。危機と不安に満ちた状況にあっても、彼らは未来への「挑戦・創造・貢献」を誓いました。「創造的な生き方をできる生徒」への第一歩です。

福沢諭吉に師事し、22歳で岩倉具視の欧米視察に随行した名士、渡辺洪基の意志を受け継ぎます。日本を代表する正統私学。1888年（明治21年）の誕生以来。実践的技術者の育成に努めました。工学院エンジニアたちの真摯な歩みは日本の発展を導き、たくましい力は世界を助きました。

平成23年、一貫教育の進化と深化。これからも工学院の生徒たちが21世紀の工学院アイデンティティを築き、世に示してくれるでしょう。6年間を工学院のフィールドを駆け、世界を見渡しながら伸びてほしいと願います。やがて、個々に育まれた工学院スピリットがハーモニーを奏で、学校総体としての「工学院アイデンティティ」も鮮やかに際立ち始めるのだと信じます。

私立中学校受験の全体的な動向に添い、相対的には志願者数減。でも、工学院の文化がかすんでいと嘆いては短絡的。新設の「選抜クラス」が期待を集めました。第一志望による志願が増しました。ムーヴでは、入試前の願い通り、入学者の意欲も力も高まったと見つけています。新入生たちは、たくさんの友人たちと高め合いながら成長過程を歩んでほしいと願います。

生徒数が増えても、教育内容の密度は濃くなったと思います。ひとり一人と向き合う手厚い指導は受け継がれるでしょう。すでに評価を集めるプレゼンテーション能力育成や国際理解教育も、かわらず力強く先導します。高校2年生までは7時間授業。プラス1時間の授業は朝の時間に設定されているため、放課後はクラブ活動にも熱中できます。バランスに優れた教育設計です。工学院らしいと思います。学習にとどまらず、クラブ活動や学校行事の活力アップも応援したいですね。

東京八王子。隣接する大学キャンパスからはインテリジェントな気配も届きます。自然光が届くエコロジカルな校舎設計も爽やか。健やかな生徒たちにふさわしい。屋上には4.0cmの反射望遠鏡。100台のコンピューターがネットワークにつながります。「未来への発信基地」と名付けたキャンパスにも心躍ります。

大学系列私学の真価を見つめる目

多摩地区に並ぶ私学の学校名をご覧ください。大学名が目立ちます。23区校と比べても顕著です。早稲田や明治、中央をはじめ、首都圏の名門私立大学の名前が一通り並んでいるかのよう。

かつて、団塊ジュニアと名付けられた世代がハイティーンに育ったころ（1990年前後でしょうか）から、当時の好景気も重なり、大学受験は激烈な争い。「エスカレーター式」に進学できる大学系列私学が人気を集めました。以後、21世紀に向けて、少子化、不景気と状況は反転。全体としては大学の門は広まりました。国公立志向も高まりました。逆に、中学から大学が決まってしまう私学が敬遠される傾向さえも報じられました。

現在、大学系列校は新たな活気を取り戻していますが性質が変わりました。「他大学進学」の方針を明らかに宣言する大学系列私学が増加。ほぼ全員が系列大学に進学する学校の方が圧倒的に希少です。

「大学進学指導の方針は？ 制度は？」「系列進学？ 他大学進学？」近年、大学系列私学のレポートで目立つ観点です。多摩地区の大学系列校も、大学進学時の指導について明らかに説明しています。各校の方針が映ります。日本では依然、大学入試を大きな関門としてとらえる意識が濃く残ります。「この学校に通うと、結果、どこの大学に進学するのかしら？」。気になる観点ですね。

しかしながら、その観点だけにスポットをあて、大学系列私学を見定めてよいのでしょうか？ ムーヴは少々懸念しています。

大学系列校の研究は、大学研究から。ムーヴからの提言です。

まずは大学の精神・文化を確かめましょう。「将来の進学先」としてではなく、「中高に気風を送り出す場」として大学を見定めるのです。そして、中高を見つめてください。大学の精神と文化は中高のどこに息づいていますか？ たとえ組織としては別法人の「系列校」であっても、大学の精神・文化が届いているはずですね。

大学は、若者たちを教育する場であると同時に研究機関です。一流の研究者たちが努める場。大規模な設備や研究資産を有しています。決して大学入試のトップに位置しなくともし、世界の尊敬を集める大学もたくさん。その人材や資産が直接的、あるいは間接的であっても中高生の学びに恵みを与えているのであれば頼もしいですね。近年の「高大一貫教育」は、大学進学軸より、若いころから「一流」「本物」に出会う機会としての位置づけが重んじられているのです。

その視点で見つめると、多摩地区の各大学系列校も「フィールドが広い！」と気づくでしょう。特質が、際立つと思います。

